

磐城時報

所版活納加所刷印所同右 社報時城磐所行發地番五十町屋紺町平郡城石縣島福 成弘田岡人刷印人行發兼輯編地番四十町屋紺町平郡城石縣島福



天皇陛下

皇后陛下

吾が八千萬國民が「われ等の陛下」として仰ぎ見る。今上天皇陛下には、御幼少の御頃より御聰明にたはしまし朝野の望みを一身にあつめさせられ大正十一年攝政の重任に即かせられて以來父君陛下に代りて萬機をすべさせ給ひ、ますます國民の信望を加へさせらる。陛下御登極の後明治大帝の宏謨に従つて御父陛下の御統治を嗣がせられ一意世界の平和と文明の發展に貢獻遊ばすことにとめらるゝであらう。従つて吾が國運は益々隆昌に、わが國威は愈々世界に重きをなすに至るであらう、吾等はその光榮ある時代を期待し、こゝに忠誠の微意を表し奉る。

年頭の辭

大正を送りて 昭和を迎ふ

先帝陛下御崩御しまして、吾等は全く闇のうちに取り残された思ひをしたが、直ちに新帝踐祚の旨を拜承し、而も茲に英邁至仁の聖上を戴き、希望に満ちた新年を迎え、新たな光明を見出し得た事は、悲しみに代ふ可き幸福である。

願みれば、げに恍々として去つてしまつた大正十五年は石城地方に於て仲々に思ひ出の深いものがある。その中で最も目覚ましい飛躍を見せたものに炭礦地方の労働運動がある。まことに大正十五年は労働を生命とする石城地方にとつて一新時期を劃したものである。去る八月内郷村磐城炭礦に孤の生聲をあげた日本坑夫組合支部は、其後日尚ほ淺きに拘はらず磐城の外入山、藤原、古河、小田の各支部組合員三千余名を算するに至り、既に創立の時代を終り今年から教育の時代に入らんとしてゐる。従つて當然生る可きは同組合本部が附屬してゐる政黨日本労働黨の出現であらう。

石城に於ては之等を左傾派と見るならば磐城労働立國自治會等約三千余名を有する組合は右傾派と見做す可く、兩者の對抗交渉は本年に入り益々複雑を極むるものと見る可く、此間に於て縣會議員の改選あり、世は既に普選と變り、而も既成政黨が醜惡の限りを盡して政界に光明を失つた時として、さなきだに政争激甚の石城の天地は目まぐるしき局面の展開を見る事であらう。

吾人は茲に諒闇の新年を迎へ心からなる謹慎の意を表するは勿論であるが、徒らに意氣消沈する事なく、今上天皇陛下の大御心を體し、各自の分を盡し一致協力國家のため地方のため奮闘努力すべきである。希望に満ちた昭和二年の曉の鐘は既に鳴り響いたではないか。

人 氣 的 焦 点 に 立 つ た 平 町 買 っ て 良 い 店 介 紹 (そ の 營 業 振 興 に 如 何 に ?)

第一位 當選 山家メリヤス店

(平町一丁目)

平町で、たゞ一軒しかないメ安の品を購し得るから他店メリヤス専門の商店、二丁目山家に比へ良品廉賣といふメリヤス店は開業三週年、營業結果に顧客から信用を受けの準備時代とも見る可き今日まる事も不思議はないのである。で同店では凡ゆる苦酸をなめ盡而して又同店では、店主以下稀し顧客の信用を得るに努めてゐるに、奮闘家である、寒さ肌をたが、その誠心誠意、堅實なる割くやうな嚴寒の日でも、往々營業方針は見事効を奏して、今や大方一般から絶大な信用を受けてゐるといふ事は、同店將來のため全く祝福すべきである。同店が信用を受け人氣の焦点に立つに至つたのは果して何がためであらうか、同店店員十名が店主重吉氏夫妻の顧客本位主義の薰陶を受け何れも客の氣持ちになり親切本位の營業を續けてゐる事にして多くの店で見ると、信用を高めた所以であらうか、火鉢を抱きこんで顔や手を眞赤れより特筆すべきは店主重吉氏にしてゐるやうな呑氣さは夢にの令弟飯沼林一郎氏が吾國メリヤス製造の本場とも言ふべき大阪で店頭で活躍を續けてゐる。阪船場の製造所に入し、苦心研究の結果製造原價の呼ぶと云へばそれまでだが.....



【部一の内店と店主スヤリメ家山】

吸を熟知し又製品の良否を鑑識し得る卓越した眼を以てゐるため勢ひ仕入れに當つて割仙南、双葉、相馬、中村等各郡

に亘り卸買が三分、小買が七分見よ同店に至つた時の氣持ち現に角素張らしい盛況ぶり、こゝ、鼻高い官僚的な商店の前には人氣を浴びるのも當然の立つた時の氣持ちとを!!..... 蓋學だ。試みに比較してし思ひ半に過ぐるものがあらう

第二位 當選 中野呉服店

(平町三丁目)

「平町を代表する商店と言へば從つてゐるが、而も尚ほ同店何と言つても丸龜だ」といふ言では更に如何にして顧客の信用を得るかに於いて毎月一回必ず野吳服店は全く基礎、取引先、營業振りに於て平町を代表する商店として遜色がない。従つて人氣があるから顧客も多く薄利多賣が出来るといふ言も多し。同店は合名會社社主は煙草元捌所や新川町郵便局を扱つてゐる中野勇吉氏、店を始めたのは既に明治の初年店の切廻しは令息康平君がやつてゐる、康平君は年若に似合はす優れた營業手腕を有し對面も感じの良い人である店が古いと基礎が確實であるだけ信用が厚く、平町藤田女學校や平陽女學校等の制服地の指定商である、そのためか今年の人氣投票で兩校生徒の十數名が三日に一度位同店の投票を纏めて持つて來た事實ある現在に於ける同店では十八名程の店員を使つて小買商のみを行つてゐるだけで、大正九年以來卸買は廢止したとの事で専ら一人一人の客に満足と與へる事に苦心してゐるから自然客も同店に親しみを持つ事になる。同店の信條は親切第一、良品廉賣、顧客本位、店員一同が之をモットーとして營業に

新年の挨拶

新しい力に生かす可き新年は來た。平生情ける人に奮闘させるための新年は來た。新年は反省である。徒らに煩悶する勿れ、又龍のやうに天に上る事を夢みる勿れ、人は分に應じ出來得る事を望み、その望みに向つて眞直に進むより外はないものだ。私も警備時報に關係してから既に五年余本紙は既に四千號に垂んとし益々堅實眞摯の態度で江湖諸賢に見ゆるを得るものである。常に思つてゐる事だが、文は經國の大業、力をも入れず天地を動かし鬼神をも泣かしむ。國民精神の消長、社會文化の趨向悉く文による。私は平素一章一節、一行半句にも全身の力を注いでゐるが尙且つ重大な理想と責務に及ばない事を懼れてゐる。今、城山の十時の鐘の音は夜半の平町各位の屋上を掠めて私の假寓にも流れて來た。程近く曉の鐘は鳴るのである。私は希冀を抱き乍らその鐘の音を待つ。(馬村)

謹而諒闇中の新年を迎ふ

磐城炭礦株式鑛業部

電話 鑛業部 國團湯本一番
運輸課湯本派出所湯本三六番
平發電所 平二二七番

石城郡 好間村

小田炭礦株式會社

平町 平驛前

平電氣株式會社

東部電力株式會社平營業所

所長 武田精一

平製氷株式會社

加納五郎

四倉銀行會社組合

四倉銀行
四倉電氣會社
磐城セメント四倉工場
磐城銀行四倉支店
萬年瓦工業會社
四倉丸通運送店

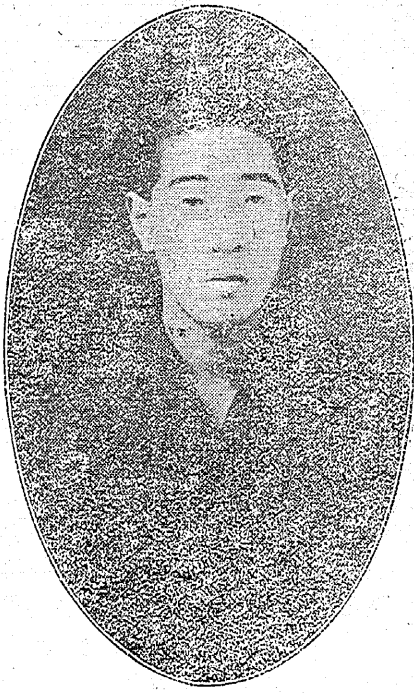
東京新聞 平町一丁目

第三位當選

茗荷屋貸衣裳店

(平町紺屋町、古鍛冶町通り)

文化が進み世の中の交渉が多くなり裾襪様の高価な衣類を注意するにつれて節約といふ事が最なるのは愚の至りである。そんな必要になつて来た今日、巨費なるものを用意するならば普通の衣類を誰れでも希望しなくてはならぬ。然し是非共さうしつて来た傾嚮を早くも観破した衣類が入用な場合が何年目かに茗荷屋若主人馬目尚治氏は質屋あつた時、その人に望み次第の並に古着商の外貸衣裳店を開業衣類道具を僅かな損料でしてから三年、此れは調法至極貸すのである一番借り手だど借人が毎日店頭で殺倒しての多いのは結婚道具で、態々双ゐる有様、そも貸衣裳店



【主店貸衣裳屋茗荷】

は、どんなものか平地方には珍らしい営業だからその大體を紹介しよう。同店の貸衣裳は決して芝居やなんかの衣裳を貸すのが本旨ではない。今の世の中で普通の婚禮仕度と揃へると小千兩はかかる。祝儀不祝儀に顔を出す際の紋付羽織だつて並大低な費用ででは作れない、まして女のものは尙更金が入る。而も吾々は普通是非共必要な衣類は銘仙か高貴織位で澤山であるのに、一年に一度か三年に一度位しかの営業者にこそ平地方中流以下入用でないものを、或ひは恐らの人々が双手をあげて歓迎し感

諒閣中に付年頭の禮を欠く
平町一丁目
石城産科婦人学校
校長 藤崎 貞術
外 講師 師 一 同

謹而諒閣中の新年を迎ふ

常磐生命保険株式会社
平代理店
吉田 五平
平町搔地小路
電話三五二番

平町田町
中島寫眞館
中島 猛

平町四丁目
小野屋薬舗
電話一四四番

平町三丁目
洋計商 大谷時計店
電話一九九番

平町二丁目
吉田伴吉商店
電話二二五番

平町二丁目
中野洋品店
電話五三番

平町搔地小路
松崎自動車部
電話四四九番

平町四丁目
伊勢屋商店

平町一丁目
仙臺屋洋服店
電話六二二番

平町新川町
命諸橋吳服店
電話五〇番

平町四丁目
關内薬局
藥劑士 關内 榮助

平町大工町
多田井商店

平町二丁目裏
岡山寫眞館

平町仲町
一葉舎印刷所
電話七三四番

綿類製造販賣
安積屋 號
高木信太郎
平紺屋町電話四四二番

平町搔地小路
瀨薬局
電話五五三番

石城郡小名濱町
磐城水産工業株式会社

石城郡植田町
植田水力電気株式会社

平町四丁目
工榮商會
佐々木健一郎

鹽屋
山崎合名會社
電話 營業部 一〇番
醸造工場 二七番

和洋銅鐵
金物問屋
釜屋商店
諸橋 久太郎

銘酒
由良之助
平町久保町
永山和平

本社の特色
株式相互ノ特長ヲ兼有ス
横濱生命保險株式会社
平代理店主 中野 甲藏
契約者ニハ加入初年ヨリ
利益ノ配當ヲナス

平洋服商工組合
五丁目 三浦洋服店
一丁目 巴屋洋服店
紺屋町 土井洋服店
研町 大久保洋服店
研町 影山洋服店
研町 高野洋服店
研町 高野洋服店
古鍛冶 中島洋服店
材木町 京屋洋服店
搔地 小松洋服店
一丁目 赤津洋服店
三丁目 佐川洋服店
研町 關洋服店
南町 鈴木洋服店

平砂糖商
同業組合
伊勢屋商店
四丁目 電話四五番
大室屋商店
新川町 電話一七二番
小川屋商店
一丁目 電話二二二番
河内屋商店
一丁目 電話二四〇番
吉田屋商店
新川町 電話三五番
大一屋商店
二丁目 電話一三三番
太丸屋商店
三丁目 電話二三三番
百澤商店
四丁目 電話一二三番

第四位 水野氷室

(平町白銀町)

水野氷室の主人水野隆助氏は何外水に附帯して必要な氷枕そのと言つても水販賣にかけては古他附屬品一切の賣捌きをも行つて経験を有してゐる、その昔平地方の水は石川慶太郎氏が天然水を貯藏して販賣してゐたが、之は全く獨占事業で一般の蒙る不便も非常に多かつたのに思ひを至し大正七年水野氏は石川氏に對抗して人造氷の製造販賣を開始し俄然石川氏の天然水を壓倒する勢力を有す



【主室水野水】

正月雜感

書初に兩の袂を親が持ち雑煮餅すんで今年の兎鍋鳩ポツ子供と唄ふ初詣塗られない顔がさびしい歌留

るに至つた、その間の苦心は今でも世人が話題に上せてゐる處である、其後平製氷株式會社が出現するに及び特約店の筆頭として氷の小賣を行つてゐるが、夏時など同店を覗いて見ると目を廻すやうな忙がしきである、夏時ばかりでなく、この冬時でも病人が使用するものとか、貯藏用とかの氷の注文が引きも切らず、配達夫は朝から晩まで落付く暇もない有様だ、同店では一貫匁でも二貫匁でも配達するから便利であら、水野氏は水販賣の外大正十年以來がスコークスの販賣を開始し之亦相當の繁昌を示してゐる、その

謹而諒閣中の新年 迎ふ

平町南町四二番地

河田梅吉

平町古鍛冶町

武藏鐵工場

電話五一四番

佐藤得之助

大勝貞次

平町杉平

松本圓藏

煉瓦建築鐵筋
コンクリート化粧
タイル張各窯爐
設計請負

青木兼次郎

電話三〇番

山城屋商店

平町材本町 (電話七四〇番)
電話三五九番

平町三丁目 久野さく

平町四丁目 (電話一一八番) 磐城工業商會
中村佐治助

平町二丁目 西村屋藥舖
電話三番

有煙・無煙各種石炭特約店 高橋龜松
平町白銀町

履物商 八新妻信八
電話六〇六番

古衣商 伊あさひや質店
電話四二五番

藥品染料 渡邊龍功堂藥局
電話一〇八番

炭礦用諸材木 三佐藤三平商店
内郷村小島 電話四三〇番

平町五丁目 馬目啓太郎
電話五四七番

平町三丁目 丸はん漆器店
電話三五九番

聚樂館 館主飯田一二
東源

平 藝妓屋組合
玉川 電話一六八
谷口 電話八
甲子 電話三五〇
三好 電話二〇九
久本 電話二七
山形 電話二六七
二葉 電話一〇二
橋家 電話七三
竹廻 電話二二
三島 電話二六〇
吉野 電話二五〇
關家 電話二四五
湖月 電話二四
仲清 電話二二
福家 電話二二
林家 電話二二
品家 電話二二
米家 電話二二
富美 電話二二
野口 電話二二

平町三丁目

第五位 當選 なかや洋服店

(平町二丁目)

今では押しも押されぬ平の安價だが、廣でも外套でも乃至洋服商として重きをなしてゐるは二重廻しでも五六圓からあるなかや洋服店主永山小平氏は、木綿の着物を作つても四五圓はの昔平町呉服商の元祖龜田屋吳服の方が余程利得だといふので服店の店員をしてゐたが、年が既製洋服類の賣れる明けて十五年前から洋服商の營業を始めた現在の大成功を、大阪方面の大工場、今日では見るに至つた立志傳、石城地方の大低の給料取り、を中に數へらるゝ人で、初め中学生等は安價で便利なるある、營業の本旨は既製洋服類かや洋服店の恩恵に預つてゐるの販賣であるが、品物は又全くの者は殆んどないといふ有様でかゝるのに、こんな工合なら洋ある。



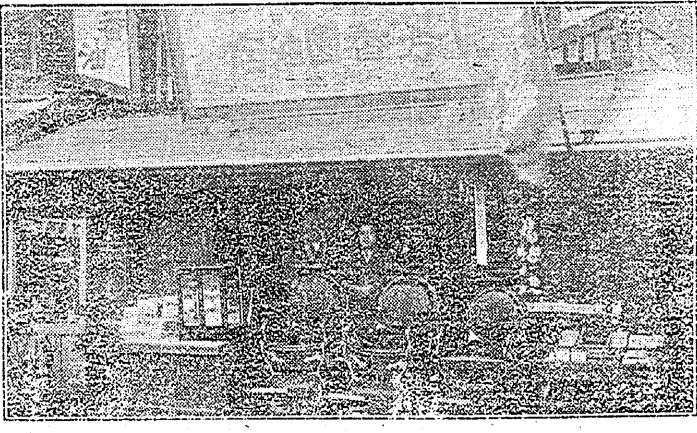
【頭店店服洋やなかや】

第六位 當選 芳香園油店

(平町土橋通)

店主田堀初太郎氏は伊勢白子町通りに油屋を開業したが、店主生れて平町に來り土木業を行つた非凡な手腕は忽ち世間の信用をたが商業に志し、大正五年を集め業務益々發展するに至つた古鍛冶町佐藤善次郎方に入店した、その頃石城郡内約千余軒の商業方面について實地に經驗を理髮業者は理髮道具を賣る店が積んだ、而して漸次手腕を平町に無かつたので態々東京、められ獨立して古鍛冶町大町

機で非常な不便を感じてゐる事情を知り之に着眼して油屋の外理髮道具一式を取扱ひ販賣するに至つた、ところがこれは石城地方にたゞ一軒しかない營業なので、顧客から非常に便利がらばバリカン、剃刀、ブラシ、鏡、消毒器等の注文が殆んど毎日の様にあり、古鍛冶通りの店では遂に狹隘を感じてに至つて過般土橋通りに移轉現在では理髮用道具の賣捌店では縣下でも有数の店に數へらるゝに至つた事は店主の機を見るに敏なりしため、誠に同店のため祝福すべきである。



【頭店店油園香芳】

俳句
 學び舎の二た部屋灯る夜學哉
 一 一角
 晩學の人も交りて夜學哉
 一 燈
 た小姓も机並べて夜學哉
 一 梅野

社告
 恒例に依り本紙は來る五日迄休刊、六日より平常通り發刊仕り候
磐城時報社

夜學子の淋しく別る草の月
 燈を消すや夜學のあとの草の
 同 人
 ◎川柳
 年と子が殖れて貧ボーし續け

紀念樹の筈筈が出来る親の恩念入りの母の化粧へ子等躍り遂口が二つて菓子を買はせられ
 東天紅

- 諒閣中に付き年頭の禮を欠く
- 平町胡摩澤
- 花澤文庫
- 平町播磨小路
- 清光堂分店
- 電話三二五番
- 平町田町
- 高橋活版所
- 電話三一九番
- 銘酒白菊正宗
- 和洋酒舖詰問屋
- 廣瀨支店
- 平町田町 電話五四番
- 平町播磨小路
- 鈴益之助

謹而諒閣中の新年を迎ふ

磐城海岸軌道株式會社
 支配人 丹野寬平

神戶海上運送火災保險會社
 東洋海上火災保險會社
 其保生命保險株式會社
 平白銀町 加藤營業所

平町信用組合
 組合長大谷久藏

湯本信用無盡株式會社

石城郡第二區校長事務協議會

石城郡第二區教育事務協議會

平町公立學校校長懇和會

平運輸株式會社

平町二丁目
關内油店
 店主 關内正一

石城郡第四區校長協議會

加納外一

平町三丁目
三井吳服店
 店主 拍原幸次郎
 電話三八番

平町田町川岸通
トモエヤ
 高野貞次郎

平町田町
赤心堂病院

平町田町
高久病院

平町田町
磐城病院

耳鼻咽喉科
大和田醫院
 平町南町

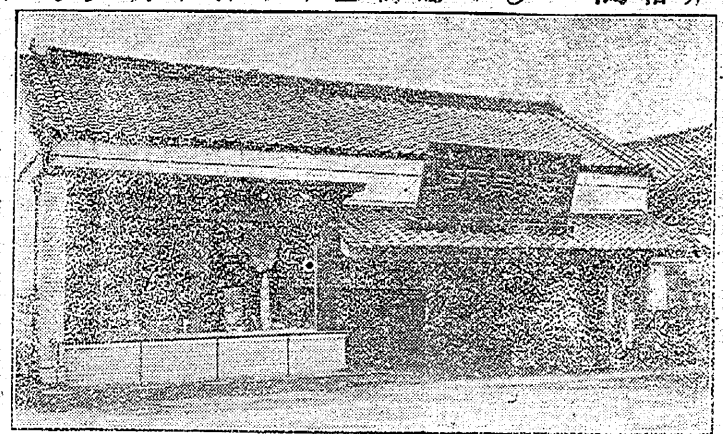
平産婆看護婦學校長
清野さよ
 平南町 電話三〇七番

ウシク子供洋服店
 平町仲町

第七位 當選

三井吳服店

(平町三丁目)



【頭店服吳井三】

平町三丁目合資會社三井吳服店は中野吳服店と相俟つて平町吳服商界の双壁である店主相原幸次郎氏は久しく平町會議員に推されてゐたが一昨年以來遂に之を辭退し今日では一意商業に意を注いでゐる、三井吳服店と言へば濱通りから仙南方面にまで知らぬ人はないといふ程評判を博してゐるが、主人幸次郎氏以下若主人、店員二十數名は何れも親切第一主義で客に接し商品は流行品の粹を網羅し店頭から飾窓附近は常に群衆で溢れてゐるといふのも決して偶然ではないのである。三井吳服店程荷物の入る所はないと或る運輸關係者は言つたが、之は商品が買ひ捌ける証據、即ち信用が厚く人氣のある結果に外ならぬ。

第八位 當選

山野邊藥局

(平町五丁目)



【頭店局藥邊野山】

平町五丁目新川町突當りに異彩を放つてゐる山野邊藥局は、錦

三年九月に開業したもので、處方、調劑の外全國各地の買藥、化粧品等の外計量器、農藝化學用藥品等を販賣してゐる、店主東次郎氏は東京明治藥學專門學校を卒業しその後製藥並に合成化學の泰斗柳澤藥學博士の研究所にあつて數年間研究を積んだ言はず官吏

聯合廣告

弊社儀等舊臘中例年の新年號準備に當り各位より年賀廣告の申込みを相受け候然る處突然大喪に遭ひ茲に吾等赤子はひたすら謹慎すべき時に遭遇いたし候隨つて弊社等に於ては新年號ごとしての例年に倣はず各位より御申込みの年賀廣告は諒閣中につき年始の禮を欠く意味の廣告に替へて掲載いたし候間此の儀御了承下され度く乍略儀紙上を以て御願ひ申上候
昭和二年一月一日
磐城新聞社
常磐毎日新聞社
磐城時報社

上りの商人である然し人に接しては高ぶるやうな處は毫末もなく腰の低い、愛嬌のよい感じのよい人、商人には持つて來いの好人物である、親切第一といふ星一氏の主義をモットーとして商賣を營んでゐます、嘘をつかず正直に熱心に世渡りするつもりですと同氏は語つてゐる。

謹 一 閣中の新年を迎ふ

平町一丁目 御料理 常盤 平松ヶ岡公園(電話二二六番)	平町二丁目 大村屋旅館 館主 大村一郎	平町二丁目 住吉屋本店 青天目源一郎	平町二丁目 住吉屋支店 酒井清	平町二丁目 炭屋旅館 關内喜久次郎	平町二丁目 御そばやぶ 電話一四一番	平町一丁目 和久井屋 電話四〇五番	平町四丁目 百澤商店 電話一二番	平町二丁目 荒物商 大一屋 電話一三番	平町銀冶町 三國屋印刷所 電話五三三番	平町南町 丸昇軒食堂 電話四三九番	蒲鉾製造仕出し經節 藤市 平町二丁目 電話三〇五	平町二丁目 越の家 電話三三〇番	湯本町 柵屋吳服店	湯本町 若松善太郎 電話二八番	平町二丁目 關内彦太郎	平町新川町 田中宣治	弓矢羽子板類 金太郎玩具店 平町三丁目	平町三丁目 旅館 山本屋 電話二八番	平町三丁目 中野吳服店 電話六七番	平町一丁目 大金百貨商店	平町三丁目角 大黒屋陳列店 電話一一六番	平町三丁目 齊藤寫眞館 美術寫眞引伸專門	諸印版彫刻 高山方圓堂 平町二丁目	平町三丁目 圓谷健三郎 中村屋號
-----------------------------------	---------------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	--------------------------------	------------------------	--------------	-----------------------	----------------	---------------	---------------------------	--------------------------	-------------------------	-----------------	----------------------------	----------------------------	-------------------------	------------------------

東京 寺 報 社

回第九位當選 山崎合名會社

(平町紺屋町本町突當り)



【頭店社合名會山崎屋鹽】

東に釜屋あり、西に塩屋ありと言はれ、大商店のうち、塩屋は過般合名會社組織になり社主が平銀行頭取山崎與三郎氏實際の經營者は山崎清三氏である、第一の營業はヤマフル醤油、その他銘酒榮冠から各種罐詰、鯉節等に至るまで凡ゆる高貴な食料品を網羅してゐる。ヤマフル醤油となつた時の不便を思ひ同店では油と言へば平町に於ては四千五百は毎日十數名の御用聞きを市内百戸のうち約三分の一即ち千に派し各戸を訪問させてゐるの戸以上の需要者があり又東京に一度鹽屋から醤油を買へば、支店を置いて帝都の需要家に供給してゐる現場であるから自然に、二度と他店から買はれぬといふ一般の噂も眞實な事である。若主人清三氏から店味質等も卓越してゐる。山崎與三郎氏の精神を體して親ののである事は想像に難くない。醤油は日用品の事であり大抵の切町、全く商店界の取つて以ては一升か五升位宛買ひ求めて飽くすきに足るものであらたたくので需要家の處で品切れう。

回第十位當選 丸昌軒食堂

(平町南町)

開業してから一年になつたばかりであるが、丸昌と言へば誰

れもが、あのきれいな洋食堂、而も親切で愛嬌たつぷりな女給さんがあつて心ゆくまで満足に飲ませ食はせさせてくれるあの感じの好い食堂を聯想する程有名になつてゐる。女給の居る洋食堂と言へば往々にして煙草に陥り易いものであるが、丸昌軒は店主の堅實な營業方針により女給等をして決して輕卒に走らせない、全くの女給たらしめてゐるので客に惡感を抱かせないそれが人氣を集めた所以であらう、丸昌軒では又迅速な出前をもやる。電話一つかければ、洋食は何んでも持つて来る、料理は東都で腕を鍛へたコックサンの味加減、まづからう筈がない

逸話集

人氣商店

丸龜の若主人

中野呉服店の若主人康平君は若いのに似合はず見上げた精神の持主である。商店などでは往々にして同業者を非難中傷したがるものだが康平君には決してこれがない。逢ふ人毎に語る「三井呉服店の柏原幸次郎さんは何と言つても平地方商界の偉人である。取引から客の吸収、店員の使ひ方まで自分等の行爲を眞似やうと思つて心がけてゐる、三井呉服店は柏原氏によつて益發展する事を信じてゐる」と云ふ。蓋し商業界に珍らしい事といふ可く、世人は三井と中野が向き合つてゐるに仲が悪いだらうと想像してゐる向きもあるだらうが、實際は如上の如くなのである。

◆質素な塩屋
山崎合名會社と言へば實際の

經營者は山崎清三氏、清三氏は釜屋に次ぐ富豪山崎與三郎氏の若主人であるから、どんなにか贅澤三昧な生活を送つてゐる事だらうと想像する人も多し事だらう。然し山崎家の日常は極めて質素を旨とし、平水道に一萬圓、ごことが千圓とか巨額の寄附を辭せない美徳と併せてその精神の崇高さに自ら標を正し心からなる感謝の涙を催はさざるを得ない。その一例を記せば清三氏は嘗て語る「私の與へた妹が嫁に當て金指輪を與へた事がない、ラヂオ等もニユースが知れて良いが私の處では必要に迫らなければ買はず、買つては付くまへん、蓄音機だけは亡くなつた妹が病氣の際聞かせやうと思つて東京から買つた。以て道義類廢した浮世の範とするに足るであらう。」

◆痛快だつた日記
山家應援者 S K 生投
磐城時報社の催した平町商店「買ひ良い店」人氣投票は、保守的にして精氣滿滿たる平町商店の營業振りを革新せしむるに足るものとして勢からず共鳴した。

そしてどの商店に投票するかを撰擇した。最先きに頭に浮んだのは山家メリヤス店である。あの、主人夫妻の益々、ばかりの愛嬌と、進取の氣象に富んだ主人の、年に幾度の原價奉仕賣出しを催す玉碎的の商標は、田舎の商人には珍らしく、將に大實業家としての素質を具へてゐるものだから最後の榮冠を贏ち得る理想の商店はこれだ」と信じて應援した。

愈々最後の二十一日の夕刊は配られた。取る手もどかしく披いて大きな活字で最高位にある山家メリヤス店の文字の眼に映じた時、思はず快哉を叫んだ者、豈獨り山家メリヤス店主のみならんや。

聞くならくは、最高位で榮冠を擔つた投票の中には、名士、現町會議員其他數氏からの同情投票が多數あると云ふ

謹而諒闇中の新年を迎ふ

磐城共濟病院

電話 四六一

内科	院長兼部長 菊地泰助
外科	部長 松野松治
皮膚泌尿科	部長 野田宏
泌尿科	部長 永琢磨
眼科	部長 菊地泰助
耳鼻科	部長 菊地泰助
衛生試驗所(理化學的検査)	部長 菊地泰助
藥劑部	部長 菊地泰助
藥局	部長 菊地泰助
病院長	部長 菊地泰助

石城郡草野村
高岡唯一郎

平町理髮業組合

石城郡泉村
水野徳次郎

平町五丁目
磐城建物株式會社
電話 五一八番

平町舊城跡
眞木正之

平町五丁目(電話四七二)
諸機械製作所
吉田鐵工場
主吉 田啓助

平町五丁目
クヌリ化粧品計量器
山野邊藥局

平町紺屋町
柳下製板工場
柳下 元吉

平町四丁目
卜即魚問屋
電話 五二八番

平町四丁目川岸通
三井質店

平町田町
食道樂 **大貞**
電話 四一三番

平町南町川岸通
御料理 **玉よし**
電話 四二六番

小島新町
服商 **根本卯太郎**

